

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 12 月 24 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530931

研究課題名(和文) 受刑者に対してロールレタリングを用いた「教育プログラム」の効果の研究

研究課題名(英文) study of the effect of the correctional program with Role Lettering for the prisoners

研究代表者

岡本 茂樹 (OKAMOTO, SHIGEKI)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：50412755

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：殺人を犯した受刑者に対して、少年院で発展してきたロールレタリングを用いた教育プログラムを作成しこれを刑務所で4年間実施し、最終的に教育プログラムの完成版を作成した。またこの研究成果を心理学関係の学会で数回発表しその発表内容を、学会誌の論文として数本発表し、また一般の人が理解できるような著書も刊行した。

研究成果の概要(英文)：I made a correctional program with Role Lettering which has been developed in work house for boys for four years in prison and finally I made a perfect correctional program for the prisoners who killed a person and I announced the effect of this program in some associations about psychology and published some journals published in some associations and also published a book which was for general people can understand this program

研究分野：臨床心理類

科研費の分科・細目：犯罪・非行

キーワード：受刑者 ロールレタリング 教育プログラム 矯正教育 更生 少年院 殺人

1. 研究開始当初の背景

本研究は、少年院で開発されたロールレタリングを、刑事施設における受刑者に導入してその効果を実証するとともに、本法を取り入れた受刑者への教育プログラムを開発するところにある。2006年に法改正が行われ、刑事施設でも改善指導の充実に図ることとなったが、効果的な処遇方法は未だ確立されていない。筆者は、一般の心理面接にロールレタリングを導入し、「自分から相手へ」の書き方を基本にして、またこうした方法が矯正教育にも有効であると考え、ロールレタリングを活用した教育プログラムを開発したい。受刑者の矯正教育に対する批判があるなか、2006年の新法の施行により、日本の刑事施設における治療教育はようやく第一歩を踏み出したところといっても過言ではない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、少年院で開発されたロールレタリングを、刑事施設における受刑者に導入してその効果を実証するとともに、本法を取り入れた受刑者への教育プログラムを開発するところにある。2006年に法改正が行われ、刑事施設でも改善指導の充実に図ることとなったが、効果的な処遇方法は未だ確立されていない。筆者は、一般の心理面接にロールレタリングを導入し、「自分から相手へ」の書き方を基本にして感情表現を促す方法で本法の効果を実証している。またこうした方法が矯正教育にも有効であると考え、事例も発表している。今後も事例研究を積み重ねて本法の実施方法を確立し、最終的にロールレタリングを活用した教育プログラムを開発したい。

3. 研究の方法

本研究の方法は、刑事施設における受刑者の教育にロールレタリングを導入した更生プログラムを作成し、その効果の検証を行う研究である。本研究では、2つの刑務所において実飛車が作成した教育プログラムを実施し、各年5名程度の受刑者に対してロールレタリングを導入し、受刑者の内面の問題の解決や被害者への贖罪教育の方法として本法の効果を実証するとともにロールレタリングを導入した教育プログラムを作成する。こうした成果を犯罪心理に関係する国内の学会において発表し、最終的に冊子の形にまとめる。研究成果を公表することによって、ロールレタリングの効果的な実施方法と本法を活用した教育プログラムを広く世に問うていきたい。

なお、年度ごとの研究計画を述べるならば、以下の通りである。

(1) 平成23年度

平成23年度には、すでに「被害者の視点を取り入れた教育」と「被害者感情理解指導」の2つの教育プログラムを開始しているが、昨

年度実施した教育プログラムを修正した内容のものを実施している。また、教育プログラムの実践と並行して、ロールレタリングを導入した受刑者の個人面接もすでに着手しており、個人面接におけるロールレタリングの効果を検証する。

(2) 平成24年度

平成23年度に得られた結果を基にして、ロールレタリングを取り入れた「教育プログラム」をさらに修正し、平成24年度も引き続き2つの刑務所において、一般改善指導ならびに特別改善指導に教育プログラムを導入し、効果の検証を行う。対象者は、平成23年度と同様に、教育プログラムを受講する両刑務所の受刑者であり、都合10名である(5名ずつの2グループ)。平成23年度は「被害者の視点を取り入れた教育」以外に「薬物依存離脱指導」の教育プログラムの開発も追究した。また、プログラムの実践と並行して、平成24年度もロールレタリングを導入した受刑者の個人面接を行い、個人面接におけるロールレタリングの効果を検証する。

(3) 平成25年度

本研究の最終年度においては、過去2年間において得られた研究結果をまとめ、受刑者の矯正教育にロールレタリングを取り入れた「教育プログラム」を完成する。具体的には、研究成果を広報用パンフレットの形にまとめ、各刑事施設だけでなく一般のカウンセリング現場においてもこれを配布できるようにし、ロールレタリングを活用した教育プログラムに関する評価を検証していきたい。

4. 研究成果

平成23年度は「加害者の視点」をテーマに、犯罪を起こした受刑者の自分自身の内面の問題を自己洞察することからグループワークを開始し、最後は「被害者の視点」までも視野に入れた教育プログラムを実施した。結果として、受刑者の更生への意欲は過去2年間に比べて高まっていることが検証された。また、「相手に対して本音を吐き出す」技法であるロールレタリングの手法が、自己の内面の気づきを促す効果をもたらしていることも明らかとなった。「加害者の視点」をテーマに受刑者自身の内面の問題を考えさせることで、受刑者が被害者のことを考えるようになっていたことを、犯罪心理や臨床心理の学会で発表したところ、新しい視点を持った研究として一定の評価を受けた。また「ノート交換」という方法により、書きやすいテーマでロールレタリングを活用した点も評価された。

平成24年度は「被害者の視点」を取り入れた教育プログラムを作成し、受刑者に特別改善指導を試みた。平成23年度と同様に、ロールレタリングを取り入れた教育プログラ

ムによって、受刑者の自己理解と罪の意識が高まっていることが明らかとなった。この成果を日本司法福祉学会と日本ロールレタリング学会において報告した。さらに研究成果の公表として、『ロールレタリング 手紙を書く心理療法の理論と実践』（金子書房）と『無期懲役受刑者の更生は可能か 本当に人は変わることはないのだろうか』（晃洋書房）の2冊の著書を上梓した。

平成 25 年度は平成 23 年度と平成 24 年度の実践の上に、ロールレタリングを取り入れた「教育プログラム」の完成版を作成した。筆者が作成した「教育プログラム」は、現在、矯正教育で実施されている「被害者の視点」ではなく、「加害者の視点」から受刑者に内省を求める方法である。それにロールレタリングの技法を取り入れることによって、受刑者に「心の整理」を促し、「上辺の反省」ではなく「真の反省」を彼らの心に芽生えさせることができた点に、本研究の意義がある。特に、心の奥底にあった「否定的感情の吐き出し」にロールレタリングを活用したことにより、受刑者が自分の内面の問題と向き合うことを可能にしたと考えられる。また「交換ノート」を用いて、個々の受刑者の「書きたい気持ちに寄り添う方法」を導入したことは、効果的なロールレタリングの方法を矯正界に提示できたと思われる。平成 25 年度には『反省させると犯罪者になります』（新潮新書）を刊行し、これまでの研究成果を公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

雑誌論文(計 10 件)

1. 無期懲役受刑者に対するロールレタリングを用いた面接過程, 岡本茂樹, 心理臨床学研究, 査読有, 31 巻 1 号, 95 - 106, 2013.
2. 「被害者の視点を取り入れた教育」にロールレタリングを用いたプログラムの効果の研究, 岡本茂樹, ゲシュタルト療法研究, 査読有, 3 巻, 47 - 57, 2013.
3. 司法領域におけるゲシュタルト療法の実践: ロールレタリングの効果的活用, 岡本茂樹, ゲシュタルト療法研究, 査読無, 3 巻, 31 - 36, 2013.
4. 薬物依存の受刑者に対するグループワークとロールレタリングを用いた心理的支援, 岡本茂樹, 立命館産業社会論集, 査読無, 49 巻 1 号, 45 - 56, 2013
5. グループワークと交換ノートを用いた殺人を犯した受刑者に対する心理的支援, 岡本茂樹, 心理臨床学研究, 査読有, 30 巻 4

号, 559 - 570, 2012.

6. 無期懲役受刑者の更生は可能か 矯正教育におけるロールレタリングの導入と意義, 岡本茂樹, ロールレタリング研究, 査読無, 12 号, 9 - 19, 2012.
7. 受刑者に対するロールレタリングを取り入れたプログラムによる心理的支援, 岡本茂樹, 査読有, ロールレタリング研究, 11 号, 29 - 40, 2011.
8. 心理面接におけるロールレタリングの実際, 岡本茂樹, ロールレタリング研究, 岡本茂樹, 査読無, 11 号, 1 - 16, 2011.
9. 受刑者支援にエンptyチェア・テクニックとロールレタリングを導入した面接過程, 岡本茂樹, 査読有, 1 号, ゲシュタルト療法研究, 19 - 27, 2011.
10. *The Process of a Therapeutic Approach to a Prisoner Using Role Lettering*, Sigeki Okamoto, 査読無 *Creating New Science for Human Services*. 117-132, 2011.

[学会発表](計 8 件)

1. 「加害者」の視点を取り入れたプログラムの研究, 岡本茂樹, 日本司法福祉学会第 14 回大会, 日本福祉大学名古屋キャンパス, 2013.8.3.
2. 問題行動を起こした人に対する支援技法としてのロールレタリング 犯罪臨床における反省のあり方, 岡本茂樹, 日本ロールレタリング学会第 14 回大会, 園田学園女子大学, 2013.8.25
3. 殺人を犯した受刑者に対する更生プログラムの研究 被害者に対するロールレタリングの効果的導入, 岡本茂樹, 日本ロールレタリング学会第 13 回大会, 高杉学園吉塚ゆりの樹学園(福岡), 2012.8.25 ~ 2012.8.26.
4. 社会復帰を控えた生命犯に対する更生プログラムの研究, 岡本茂樹, 日本司法福祉学会第 13 回大会, 東洋大学, 2012.8.4 ~ 2012.8.5.
5. 社会復帰を控えた受刑者に対するロールレタリングを用いた教育プログラム, 岡本茂樹, 日本矯正教育学会第 47 回大会, 東京中野サンプラザ, 2011.9.21.
6. 無期懲役受刑者に対するロールレタリングを用いた面接過程, 岡本茂樹, 日本心理臨床学会第 30 回大会, 福岡国際会議場,

2011.9.2.

7. 無期懲役受刑者の更生は可能か 矯正教育におけるロールレタリングの導入と意義, 岡本茂樹, 日本ロールレタリング学会第12回大会, 梅花女子大学, 2011.8.28
8. 殺人を犯した受刑者に対するロールレタリングを用いたグループワークによる心理的支援, 岡本茂樹, 日本ロールレタリング学会第12回大会, 梅花女子大学, 2011.8.27.

図書(計3件)

1. 反省させると犯罪者になります, 岡本茂樹, 新潮社, 全220頁, 2013.
2. 無期懲役囚の更生は可能か 本当に人は変わることはないのだろうか, 岡本茂樹, 晃洋書房, 全264頁, 2013
3. ロールレタリング 手紙を書く心理療法の理論と実践, 岡本茂樹, 金子書房, 全190頁, 2012.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本 茂樹 (OKAMOTO, Sigeki)
立命館大学・産業社会学部・教授
研究者番号: 50412755

(2) 研究分担者

()
研究者番号:

(3) 連携研究者

()
研究者番号: